

## 河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

### 1 平成 30 年度（2018 年度）河川工作物アドバイザー会議の開催状況

以下のとおり開催した。

- (1) ルシャ川ダム改善方針に係る打合わせ会議 (平成 30 年 4 月 27 日(金) 札幌市)  
北海道主催のクローズド会議で、「ルシャ川ダム改善方針案」と「ルシャ川河床路実証試験計画」について、地元関係者への説明にあたっての助言を行った。
- (2) ルシャ川治山ダム改善方針(案)等にかかる地元説明会 (平成 30 年 6 月 7 日(金) 斜里町)  
北海道主催で開催し、事務局より「ルシャ川ダム改善方針案」の説明を行い、地元の同意を得た。今後、具体的な施工方法や施工時期について、引き続き漁業関係者と協議していく。  
また「ルシャ川河床路実証試験計画」についても事務局より説明し、地元の同意を得た。
- (3) 第 1 回会議 (平成 30 年 7 月 9 日(月)～7 月 10 日(火) 斜里町)  
7 月 9 日(月) 現地検討会 (ルシャ川)  
治山ダムの改良及び河床路の実証試験計画について現地検討を行った。  
7 月 10 日(火) 室内会議 (斜里町)  
第 41 回世界遺産委員会決議の対応、オショロコマ生息等調査、第二次検討ダムの先行河川(オッカバケ川)等について議論を行った。  
なお、会議終了後、ルシャ川のダムと河床路及びオッカバケ川におけるモニタリングについて、一部の委員により個別現地検討と実施主体に対する助言を行った。

### 2 長期モニタリングについて

#### (1) 調査の実施状況

長期モニタリング実施計画に基づき、以下の調査を実施している。

##### ① オショロコマ生息調査に着手

「淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況」について、従来どおり遺産隣接地域を含む 37 河川の水溫測定に着手するとともに、5 年で 37 河川を 1 巡する魚類生息調査等の 2 巡目に着手した。

##### ② 新たな調査項目の追加

平成 31 年度から環境 DNA 調査を新たな調査項目として加え、環境水の採取に着手した。今後、オショロコマの長期モニタリング調査というフレームの中で、環境水の分析法やデータの取扱などの検討を行い、次期のとりまとめに向けた手法の整理を図っていくこととした。

一方、環境水から派生的に得られると思われる陸上生態系のデータについては、別途本

委員会等において整理を図るよう議論をとりまとめた。

## (2) 長期モニタリングの見直し

河川工作物 AP 会議が担当する 2 つのモニタリング調査は継続と昨年報告済。

## 3 第 41 回世界遺産委員会決議に係わる対応について

### (1) 第 39 回世界遺産委員会決議に対する保全状況報告に即した取組状況

#### ① ルシャ川ダム改善方針案

当該報告のとおり、現在地域の行政や地元の漁業関係者等と協議中である。

#### ② ルシャ川河床路

当該報告のとおり、本年11月頃、現地実証試験用の河床路を施工着手予定である。

### (2) IUCN 諮問ミッションの対応について

前回の委員会において、河川工作物 AP 会議では、ルシャ地区を主とした現地案内の行程や説明資料などの準備を進めることとし、日本政府が進める招聘手続に備えると報告していたが、7月の AP 会議において、事務局から本年度の招聘は困難との報告があった。そのため、そのミッションの現地対応として本年9月末頃に開催予定であった AP 会議は開催しないこととした。

### (3) 保全状況報告案

第 41 回世界遺産委員会決議にかかる保全状況報告(勧告 5・勧告 6)について、事務局において河川工作物 AP 会議の助言を踏まえ、案を作成しているところである。(資料 2-1 参照)

## 4 第二次検討ダムについて

これまで検討を進めていた先行河川のオッカバケ川ダムについて議論した。

2 基のダムのうち上流側の 2 号ダムについて、昨年度に引き続き改良を予定している。

(4 年間の工事期間の 2 年目となる平成 30 年度は 150cm の切り下げを予定。)

## 5 今後の予定

第 2 回会議を平成 31 年 2 月頃に開催予定。

## 6 その他

特になし。